

第9回 「京都市立総合支援学校デュアルシステム推進ネットワーク会議」〈議事録〉

1. 日 時 平成22年 6月16日(水) 13:30～16:30
 2. 場 所 日本新薬山科植物資料館

出席者：経営者協会，オムロン，川島織物セルコン，島津製作所，TSK，堀場製作所，
 聖護院八ッ橋，宝酒造，TSK，日本新薬，障害者職業相談室，京都障害者就業・
 生活支援センター，京都府商工労働観光部，京都市障害保健福祉課の計16名
 総合支援学校（校長・進路主事等）10名，教育委員会8名

合計33名

3. 内 容 進行：白河総合支援学校長 森脇 勤

(1) あいさつ

○京都経営者協会 専務理事

向井仲和美

・昨年，全体的な障害者の雇用についてはマイナス成長ということではなく進んでいると
 思うが個々については難しい状況にある。デュアルシステム推進ネットワーク会議と
 いうことでノウハウを普遍化したいと思う。新しいチャレンジも平行して取り組みたい。

○京都市教育委員会 指導部担当部長

清水稔之

・白河・鳴滝をはじめ就職を希望する生徒については1名を除き実現。京都障害者雇用推進
 会議は，市役所の中でも4名事務的な内容で実習を受け入れる。先日の学校説明会でも，
 300名以上の参加があり期待の大きさを感じる。

(2) 本日の予定説明

- (3) 事例報告 『日本新薬株式会社』 本間 浩司氏

～ 休憩・山科植物資料館見学 ～

(4) 協議

森脇校長：企業内での啓発の展開も一つのテーマである。

定着→担当の方だけではなく，企業全体の理解・関係機関との連携もテーマに
 していきたい。卒業後の定着・職業人としての成長
 学校で何を育て会社にどのようにつないでいくか
 会社が必要とされることをどのように支援するか
 就職100%→定着100%→満足100%
 やりがいをもって働く。いい方向への循環。

佐藤氏（島津製作所）：工科学校の中に知的障害2名配属・・・事業部からの請け負いの仕事を
 している。（工場でのウェスのカット・梱包材の整理・事務棟から出る廃棄書類を
 シュレッダーする）自分達で治具を作ろうと提案することもできるようになってきた。
 このことに驚いている方がおかしいと思った。給料に見合った仕事をしている。
 彼らに見合った仕事を切り分ける。→周りにいい影響を与える。

武部氏（川島セルコン）：知的障害の方3名が働いているが高齢（50台）2名が契約社員
 1名は社員。糸の準備やサンプルカット→効率化・外注化→工場内の清掃へ
 定年を迎えた後どうしていくか課題である。中国人研修生のことも考えている。

西川氏（堀場製作所）：会社がどうであれば満足度があげられるのか・・・森脇校長先生は

難しい課題をあげられたなあと。価値観も多様化していて会社として選択肢が
どれだけ準備できるか課題。

鈴木氏（宝酒造）：障害者や高齢者は昔、地域や家庭で抱えていたが、企業や学校が担って
いく時代になってきた。業務の効率化・・・ルーチンワークを切り離す→請け負いや
契約へ。話を聞く中で請け負い等の部分を障害者の方に担っていただくことを考え
ていけるかと思う。

市村氏（オムロン）3月は2.68%が4月1日現在2.9%。2009年の営業利益0→100億円
知的障害の方にどのような仕事があるか。今年九州の子会社に知的の方を雇用した
ので今後どのような活躍をしてくれるか。キャリアを自分で考えてそれを満足へ結
び付けていく。

山本氏（聖護院八ッ橋）各企業の障害者の方への理解。一部だけが理解してもだめで全体とし
て暖かく迎え一緒に働くことが重要。雇用率を上げるという目的だけでやっても
伸びがない。

福井氏（TSK）：障害者雇用はパートが中心。エリアのリーダーに障害者雇用に対する温度
差があるので、それにより個々の満足度は変わってくる。温度差をなくす努力が必
要。

居内氏（保健福祉課）：京都市では昨年より就労支援推進会議が開かれ、本格的に障害者の就
労支援が始まった。市役所内の仕事やヘルスキーパーなどで職場実習チャレンジ雇
用を実施。昨年は実習・・・知的4名、精神4名の内2名雇用→3名企業就労
今年度16名実習（内4名が支援学校）
仕事の切り出しや作業の効率化。雇用していただくための職域開発啓発事業などで
企業を支援。

阪田氏（就業・生活支援センター）

就業・は今年1ヶ所増えて7ヶ所。労働局の委託事業→企業の方の啓発事業
残念ながらリタイアした人の相談が少しずつ増えている。辞めてしまってから相談
に来るより在職中に来てほしい。障害はあるが悩みは同じ。追い詰められて犯罪に
なる人も増えている。

森脇校長 11/10の『雇用フォーラム』でデュアルの皆様の中からどなたか提案していただい
たらと考えているので宜しくお願いしたい。

おわりに

京都市立鳴滝総合支援学校長

北村 裕二